

第4回 羽島市幼保小連携推進協議会



令和6年1月16日(火)
羽島市教育委員会 学校教育課

議題1 令和5年度の取組状況について

- (1) 小学校区の取組み
- (2) 園の取組み
- (3) 市の取組み

議題2 第2回幼保小連携に関わる調査の報告について

- (1) 結果と考察
- (2) 令和6年度に向けて

議題3 モデル小学校区の取組みについて

- (1) モデル小学校区の決定
- (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針
- (3) 園・小学校の取組み

議題1 令和5年度の取組状況について

(1) 小学校区の取組み 正木小学校区（学校探検）

参加園：羽島幼稚園（11/29）

まさきこども園（12/12）

※ひかり泉こども園は感染症拡大のため中止

内 容：校長先生の話
ゲーム
学校探検



体育館で集団遊び



学校探検

【羽島幼稚園】

- ・園職員が、学校探検のねらいや、育成される幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、職員の役割等を共通理解して参加した。
- ・園で「つあーカード」を作成し、園児が目的をもって参加できるように事前指導をした。
- ・園に戻ってからは、学校探検で気付いたことを話す場を設けた。

議題1 令和5年度の取組状況について

(1) 小学校区の取組み 正木小学校区（学校探検）

参加園：羽島幼稚園（11/29）

まさきこども園（12/12）

※ひかり泉こども園は感染症拡大のため中止

内 容：校長先生の話
ゲーム
学校探検



6年生が校内を案内



6年生と集団遊び

【まさきこども園】

<園児>

「図書館が探検できてうれしかった」「おにごっこやゲームが楽しかった」

<6年生>

「休み時間にみんなで遊ぶと楽しいよ」「勉強するとかしこくなるよ」

6年生が学校を案内し、学校生活に対する安心感を与えることができた。

議題1 令和5年度の取組状況について

(1) 小学校区の取組み

堀津小学校区（生活科）

参加園：堀津保育園（11/16、12/7）

内 容：小学1年生生活科「あきとあそぼう」の授業で、園児と小学生がペアになって、児童が準備した遊びを楽しんだ。



園児のために、おもちゃや遊び方を工夫



教員が、園児の姿を想起させる助言

【事前学習（11/16）】

- ・自分たちで考えた秋の遊びを、園児も楽しめるように工夫をした。
- ・おもちゃやルールをどのように改善したらよいか、仲間と相談して考えた。
- ・園の職員が参観して、小学校での準備の様子を園児に伝えてもらった。

議題1 令和5年度の取組状況について

(1) 小学校区の取組み

堀津小学校区（生活科）

参加園：堀津保育園（11/16、12/7）

内 容：小学1年生生活科「あきとあそぼう」の授業で、園児と小学生がペアになって、児童が準備した遊びを楽しんだ。



ペアの園児に、おもちゃの作り方をアドバイス



小学生と一緒に園児が遊びを楽しむ

【園児と交流（12/7）】

- ・「〇〇か、△△かどっちがいい？」と小学生が園児に好きな遊びを選ばせていた。
- ・まつぼっくりけん玉のひもの長さを工夫したり、得点をランキング形式にして名前をのせたりした。
→園児にとっては、小学校生活の見通しをもつ機会となった。
→小学生にとっては、相手意識をもち、思考力コミュニケーション能力を発揮する場となった。

議題1 令和5年度の取組状況について

(2) 園の取組み

保護者への啓発（西部幼稚園）

資料1

- ・園児の具体的な姿をとおして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の啓発資料を作成した。
- ・通信で配布、ホームページに掲載、園内に掲示する等の方法で、保護者に啓発をした。

- ・自分でできることは自分で考え、体を動かし、さまざまな遊びや活動を進んでしようとする
- ・くじけず投げ出さず、成功体験を力にして、できることを増やして自信をもつ



議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

小学校教員による園実習

資料2

日時:7月31日(金)

参加者:小学校教員 34名

場所:各小学校区の保育園、認定こども園

内容例:オリエンテーション

実習

給食参観

振り返り



議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

小学校教員による園実習

<小学校教員のアンケート結果より>

○園児の様子について

- ・園児が**遊びを通して**、様々なことに気付いたり、仲間と関わったりして**学んでいることの理解**につながった。
- ・**少ない指示で動く園児**の姿から、小学校の指導を見直し振り返る機会となった。

○園職員の関わり方について

- ・子供の思いを大切に、**園児が自己を発揮して遊びきることが**
できるような支援についての理解につながった。



議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

小学校教員による園実習

<小学校教員のアンケート結果より>

○環境について

- ・個々に遊びを選択して、自分のペースで遊びが進められるような、**環境設定の工夫**に気付くことができた。

○その他

- ・園の活動と小学校の活動へのギャップに気付いたことで、**架け橋期のカリキュラム作成へのヒント**を得ることができた。
- ・園児の実際の姿を通して、幼保小で話し合い機会をもつことができた。



議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

小学校教員による園実習

<園職員のアンケート結果より>

- **小学校教員の積極的な姿**に共感を覚えた。
- **園児**が自分たちで考えて行動したり、仲間と関わっていく様子を**共有**できてよかった
- 小学校を参観した後の園実習であったため、**お互いの教育・保育を踏まえて話**ができた。
- 1回の実習で、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿について、相互理解をするのは難しい。
- 小学校と園の教員では、**子供の見方に違い**があると感じた。



議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

第1回幼保小連携担当者会

日時: 8月4日(金)

参加者: 園連携担当者 23名
小学校連携担当者 13名

場所: 羽島市役所301、302号室

内容: 羽島市の幼保小連携の方向
新1年生の様子
小学校区連携の在り方



(3) 市の取組み

第1回幼保小連携担当者会

<新1年生の姿についての意見>

- ・全体としては**落ち着いている**。
- ・園の方針は様々であるが、**前向きに取り組む**児童が多い。
- ・集団で動くことに抵抗が少ない。
- ・同じ園の児童でかたまるため、仲間づくりに時間がかかる。
- ・リーダー的な存在になる児童はいるが、他の児童の主張に押されてしまう。
- ・**言葉による伝え合い**ができているが、**主体性**には課題がある。

議題1 令和5年度の取組状況について

(3) 市の取組み

第1回幼保小連携担当者会

<今後の連携についての意見>

- ・授業参観は、4、5月だけでなく継続的に行いたい。
- ・新1年生への対応の仕方について、**気軽に連絡をできる関係づくり**が必要である。
- ・園児と児童の交流の内容は、相談して決めるとよい。
- ・園からのつながりを考えた小学校のスタートになるように意見を交換していくとよい。
- ・**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を大切にして、連携していく必要がある。**

(3) 市の取組み

第Ⅰ回幼保小連携担当者会

<成果と課題>

- 各小学校区で、参観や園実習が行われていたため、実際の**子供の姿を踏まえた交流**ができた。
- 小学校の指導と、園の方針のギャップなど**課題が明確**になった。
- 幼保小の連携に向けて、具体的な方法を話し合う機会となった。
- お互いの教育・保育への理解をさらに深めるために、小学校区ごとに**計画的に連携**していくとよい。
- 園・小学校の相互の参観や実習の**成果を、どのように広げていくか**を考える必要がある。

議題2 第2回幼保小連携に関わる調査の報告について

(1) 結果と考察

アンケート調査（教職員用） 資料3

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、**小学校教員の理解**が進んだ。園実習の伝達講習等で話題になる機会が増えたことが考えられる（Q1、Q2）

議題2 第2回幼保小連携に関する調査の報告について

(1) 結果と考察

アンケート調査（教職員用） 資料3

自然との関わり・生命尊重、健康な心と体、豊かな感性と表現は、小学校、幼児教育施設共によく育っていると感じた職員の割合が高い。(Q3)

協同性や言葉による伝え合いは、園がよく育っていると感じている職員の割合が高いが、小学校は課題を感じた職員の割合が高くギャップがある。(Q3)

議題2 第2回幼保小連携に関わる調査の報告について

(1) 結果と考察

アンケート調査（教職員用） 資料3

小学校、幼児教育施設共に道徳性・規範意識の芽生え、豊かな感性の課題を感じた職員の割合が高くなっている。(Q3)

園・小学校が、互いに参観したり、合同で研修したりする機会が増えている。しかし、全体から見ると参観や研修の経験ある職員の割合は低い。(Q5、Q6)

(1) 結果と考察

アンケート調査（管理職用） 資料4

- ・ **園児と児童の交流が増えた**。コロナ禍の影響が少なくなったことが影響していると考えられる。(Q7)
- ・ 園と小学校の合同研修会や参観の機会が増えた。
小1の姿を通して、年長児の活動について共に考えることにつながった。(Q5、Q6、Q8、Q9)

議題2 第2回幼保小連携に関する調査の報告について

(1) 結果と考察

実態調査（管理職用） 資料5

- すべての小学校区において、**園職員や小学校教員が** **お互いの教育・保育を参観する機会**が設けられるようになった。
- 小学校区の合同会議において、**引継ぎだけでなく幼保小の連携全体の在り方**について話し合われるようになった。

(1) 結果と考察

実態調査（管理職用） 資料5

- ・幼児教育についての、**小学校教員の理解に差**がある。
小学校教員への啓発が必要である。
- ・子供の姿をもとに**お互いの教育・保育への理解を継続的に深めていく**ことが、今後の連携において重要である。

議題2 第2回幼保小連携に関する調査の報告について

(2) 今後の方向

令和6年度

モデル小学校区における実践を踏まえ、幼保小連携のモデルを作成する。(協議会 答申)

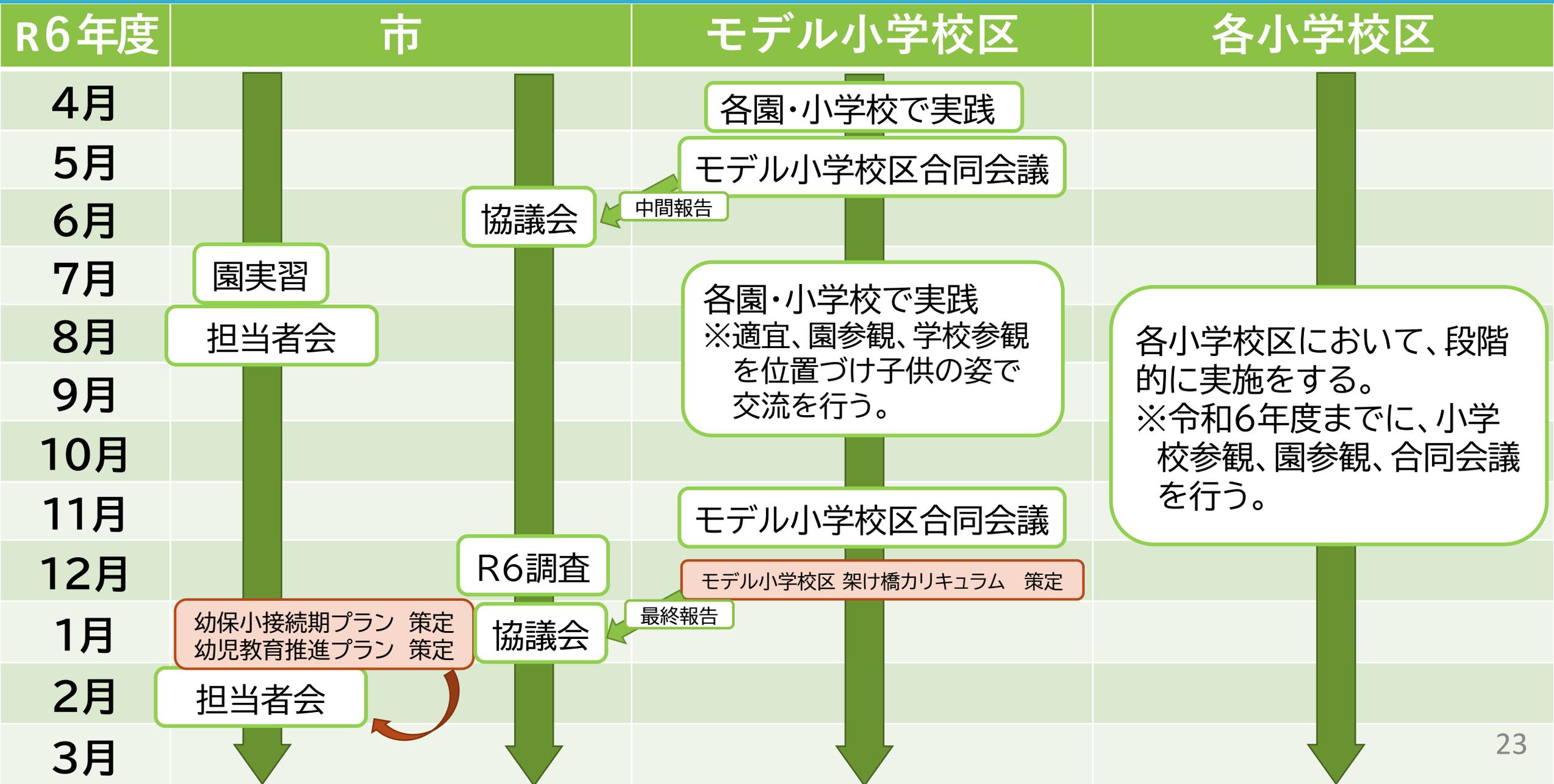
<モデル小学校区>

モデル小学校区の子供の実態や、教育・保育の実践を踏まえ、
架け橋期のカリキュラムを策定する。

<協議会>

モデル小学校区における実践を踏まえ、**幼保小接続期プラン**を策定する。また、各園における教育・保育の実践を踏まえ、**幼児教育推進プラン**を策定する。

議題2 第2回幼保小連携に関する調査の報告について



(2) 今後の方向

- ・小学校教員向けの**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の啓発資料**を作成・配布する。
- ・**幼保小接続期プラン**に、小学校区における架け橋期のカリキュラム作成のねらいや手順について記載する。
- ・**幼児教育推進プラン**に、幼児教育で大切にしていることや、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について記載し、保護者の啓発に活用する。

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(1) モデル小学校区の決定

モデル小学校区

堀津小学校区（堀津小学校、堀津保育園）

モデル小学校区決定の理由

- ・ **小学校1校、幼児教育施設1園**のため、架け橋期のカリキュラムを作成しやすい。
- ・ **小学校と園の距離**が近く、子供同士の交流がしやすい。
- ・ 今年度、**計画的に連携**が実施されている。

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(2) 架け橋期のカリキュラム開発方針

資料6

<共通の視点>

- (1) 期待する子供像
- (2) 園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科の単元構成等
- (3) 指導上の配慮事項
- (4) 子供の交流
- (5) 職員の交流
- (6) 学校行事・家庭や地域との連携

架け橋期のカリキュラム開発方針(堀津小学校区)

共通の視点		5歳児		小学校1年生		
		I 4月～12月	II 1・2・3月	III 4月	IV 5・6・7月	V 8月～3月
(1) 期待する子供像		自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子 ～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～ <重点とする10の姿 ②③④>				
		仲間とともに考えたり協力したりしながら遊びきる③④	仲間と願いを伝え合い、自信をもって自分の力を発揮しながら遊びきる③④⑤	幼児期の学びを発揮し、新しい学校生活への願いや気付きを新しい仲間や教師に伝えることができる③④⑤	目的に向かって、仲間のアイデアを生かしながら、創意工夫を繰り返し活動する②④⑤	目的を達成する中で自己の成長を実感し、自信をもって自分の考えを表現したり、活動につなげたりする②
(2) 期待する子供像につながる資質・能力を育成する観点、小学校の活動	② 自立心					
	③ 協同性					
	④ 言葉による伝え合い					
(3) 指導上の配慮事項	先生の関わり			※児童の願いや気付きを大切に、児童が学校生活を劇り上げるのを支援する		
	環境の構成・環境づくり			※教室に遊びスペースを準備する。(こま、けん玉、パターンプログ) ※学級図書の設定		
(4) 子供の交流	児童と園児	※1年生との交流(7月・11月) ※5年生と学校探検(12月)			※5歳児(もも組)との交流(生活科)	※5歳児(もも組)との交流(生活科)
	園児と園児(園) 児童と児童(小学校)			※1年生を迎える会(4月)		
(5) 職員の交流		※小学校区合同会議・小参観(4月) ※小学校区合同会議・園参観(6月) ※市幼保小連携担当者会(8月)	※市幼保小連携担当者会(2月) ※小学校区合同会議・引継ぎ(3月)	※小学校区合同会議・小参観(4月)	※小学校区合同会議・園参観(6月)	※園実習(8月) ※幼保小連携担当者会(8月)
(6) 学校行事・家庭や地域との連携		※入園式(4月) ※保育参観		※入学式(4月)		※卒業式(3月)

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(2) 架け橋期のカリキュラム開発方針

<堀津小学校区の期待する子供像>

自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子
～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～

<重点とする10の姿> ・言葉による伝え合い ・協同性 ・自立心

堀津保育園

- ・5歳児は、4月当初は、仲間とかかわりながら遊びを発展させていく。
- ・遊びをとおして、少しずつ自立心を育てていきたい。

堀津小学校

- ・他の小学校と一緒にいると、消極的になり自分のよさを発揮できない。
- ・言葉で伝え合うことに弱さを感じる。
- ・目的に向かって、やりぬいていくたくましさを育てていきたい。

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(2) 架け橋期のカリキュラム開発方針

<堀津小学校区の期待する子供像>

自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子
～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～

5歳児（堀津保育園）

I 4月～12月
仲間とともに考えたり協力したりしながら遊びきる

II 1月～3月
仲間と願いを伝え合い、自信をもって自分の力を発揮しながら遊びきる

III 4月
幼児期の学びを発揮し、新しい学校生活への願いや気づきを新しい仲間や教師に伝える

小学1年生（堀津小学校）

IV 5月～7月
目的に向かって、仲間のアイデアを生かしながら、創意工夫を繰り返して活動する

IV 8月～3月
目的を達成する中で自己の成長を実感し、自信をもって自分の考えを表現したり、活動につなげたりする

遊びの中での気づき

自覚的な学び

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(3) 園・小学校の取組み

<架け橋期のカリキュラム開発会議>

第1回(令和6年 2月)

- ・モデル小学校区の開発方針の決定
- ・4月からの小学校の実践について検討

第2回(令和6年 5月)

- ・4月の小学校の実践を中心に検証
- ・今後の実践について検討

第5回協議会へ報告
(令和6年6月)

第3回(令和6年 11月)

- ・園・小学校の実践を検証
- ・架け橋期のカリキュラム(案)検討

第6回協議会へ報告
(令和7年1月)

議題3 モデル小学校区の取組みについて

資料7

(3) 園・小学校の取組み

<振り返りシート>

- ・カリキュラム開発会議において活用する。
- ・(2)は開発方針をもとに追記したり、削除したりする内容を記入する。
- ・Aを記入して、会議の中で検討し、今後の改善点等をBにまとめる。

架け橋期のカリキュラム振り返りシート(堀津小学校区 小学校用)

共通の視点		小学校1年生		
		Ⅲ 4月	Ⅳ 5-6-7月	Ⅴ 8月-3月
(1)期待する子供像		自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子 ~仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ~ <重点とする10の姿 ②③⑨ > 幼児期の学びを発揮し、新しい学校生活への願いや気付きを新しい仲間や教師に伝えることができる③⑨		
(2)期待する子供像につながる資質・能力を育成する園、小学校の活動		目的に向かって、仲間のアイデアを生かしながら、創意工夫を繰り返し活動する②⑨		
② 自立心 ③ 協同性 ⑨ 言葉による伝え合い	※新たに追記した活動は●をつける。削除した方がよい活動は▲をつける。	目的を達成する中で自己の成長を実感し、自信をもって自分の考えを表現したり、活動につなげたりする②		
	A 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子供の学びの姿 ※どのような遊び・学習活動で、どのような姿が見られたかを記入する。有効であった環境設定や支援を明記するとよい。	園・小学校内で、カリキュラム開発会議までに、開発方針から新たに追記した活動に●、削除した方がよい活動に▲をつけておく。		
	B カリキュラム開発会議より ※よかった点や、今後の改善等を明記する	カリキュラム開発会議後に記入する。		

園・小学校内で、カリキュラム開発会議までに、開発方針から新たに追記した活動に●、削除した方がよい活動に▲をつけておく。

園・小学校内で、カリキュラム開発会議までに記入しておく。

カリキュラム開発会議後に記入する。

議題3 モデル小学校区の取組みについて

(3) モデル小学校区の取組み

<Ⅲ 小学1年生4月>

- ・0.5時間単位で計画を立て、生活科を中心に、合科的・関連的な指導を行う。

<例>体育でならびっこゲームを行った後、校庭探検をする。教室に戻って見つけたことを交流する。(体育0.5、生活科1.5)

- ・幼児期の学びを発揮できるように、教師が児童の願いや気付きを大切にした指導を行う。 ※明示する指導と、考えさせる指導を区別をする。

<例>トイレの使い方について、「どんなことに気を付けたらいいかな」と問いかける。

- ・児童が安心感をもてるよう、幼児期に親しんだような紙芝居やリズム遊びをしたり、仲間と心を開放して触れ合える活動を取り入れる。